平和週間の話（案）（8 月 29 日（火））

校長より

先生方の「おれはなにわのライオンや」の読み聞かせ、児童のみなさんの「折り鶴」の素敵な合唱。どちらもとても感動しました。ありがとうございました。
今日は平和週間の始まりの日です。こうしてみんなで集まって平和というものがいかに大切か、戦争がいかにいけないことなのかを学ぶ大切な日だと思っています。

さて、先ほど児童のみなさんが歌ってくれた「折り鶴」。どうして折り鶴なんだろう、折り鶴にはどんな思いが込められているのだろうと思って、少し調べてみました。

日本では平安時代（今から１２００年以上前）から「紙」を折ることは伝統的に行われていたそうです。これは紙が「神様の神（紙）」に通ずるという意味合いがあったということ、さらに「鶴は千年、亀は万年」という言葉があるように長生きを象徴する鳥として、古くから「鶴は縁起の良い鳥」とされていたことから、お祝いや病気見舞いなどで盛んに「折り鶴」が折られるようになったと言われています。つまり誰かのために、何かの願いや思いを込めて鶴を折ることで、そのことがかないますようにという祈りの気持ちがこめられるようになったようです。
みなさんの今日の「折り鶴」の歌が、世界中の人のために、戦争のない平和な世の中に近づく一歩になってほしいという祈りの気持ちを込めて、今日１日過ごしたいなあと思っています。

世界に目を向けると、ウクライナへの侵攻を続けるロシアの姿が目に浮かんできます。ロシアは核兵器をもっているので、いつでも使うことができるよという脅しの力が強まっています。核兵器の被害にあって、その悲惨さを知っているただ一つの国、日本。核兵器による悲劇を繰り返さないために、今ほど世界が１つになって核兵器をつくらない、使わないということが求められている時はありません。
今年の５月に広島で行われた、先進７か国首脳会議（G７サミット）にウクライナのゼレンスキー大統領が参加しました。この時にゼレンスキー大統領は、毎年６年生が修学旅行で訪れる資料館を見学しています。ここには、原爆の被害にあった時のたくさんの資料や遺品が展示されています。この資料館においているノートにゼレンスキー大統領は、資料館をみた感想をこう書かれたそうです。「世界中のどの国も、このような苦痛と破壊を経験してはならない」と。
このサミットの影響もあってか、今年、原爆ドームや資料館を訪れる外国人の姿が多くみられるそうです。世界中の多くの人々が広島や長崎に足を運ぶことで、核兵器をつくらない、使わないという気持ちが世界中で高まることを期待したいなあと思っています。

みなさんも核兵器をつくらない、使わない平和な世の中をつくっていくための活動や方法を自分なりに考えてみてください。未来の世の中がどうなっていくかはみなさんの考え方や行動にかかっています。

これで校長先生の話を終わります。